

復刊

ハザミ



所沢図書館だより
復刊11号(通巻89号)
題字 高橋 玄洋 氏

目 次	
P.1-3	所沢文学散歩 三ヶ島菫子の生涯
P.4-5	トベアの本館めぐり ～1階・2階～
P.6	介護の日

所沢文学散歩

「歌人三ヶ島菫子の生涯」

講師 関谷 英雄 氏

平成27年10月25日(日) 椿峰分館主催
会場 山口まちづくりセンター

私は3年半前まで所沢市役所で働き、社会教育や生涯学習の仕事をしてきました。三ヶ島菫子に関しては、他の仕事と並行して長く担当し、退職後も協力しています。

はじめに

「三ヶ島菫子」はペンネームです。本名は「三ヶ島よし」、結婚後は「倉片よし」です。生涯に6千首の短歌を詠みました。

菫子は明治19年8月7日に三ヶ島堀之内村(所沢市)で生まれ、昭和2年3月に麻布区谷町(港区)で亡くなりました。40歳7カ月の生涯です。菫子の一人娘である倉片みなみ(中島みなみ)さんが平成13年に亡くなりました。お子さんがなかったのも、もう菫子の血を引く人はいません。今は菫子の生家の跡だけが残っています。

昭和9年に橋本徳寿編集の

『三ヶ島菫子全歌集』が出版さ

れ、題字は夫・寛一が、序文は斎藤茂吉が書きました。その後、みなみさんが『三ヶ島菫子日記』『三ヶ島菫子往復書簡抄』『定本三ヶ島菫子全歌集』などを出版しました。

平成4年に、みなみさんから所沢市に菫子の日記・手紙・写真などの資料が寄贈され、平成6年に三ヶ島菫子資料室(三ヶ島公民館内)ができました。

歌人による菫子研究の本が何冊もあり、市教育委員会も3冊発行しています。

生い立ち

三ヶ島本家は中氷川神社の神官ですが、菫子の家は分家です。三ヶ島小学校校長だった父の転勤で、子どもの頃は槻川村(東秩父村)、小手指村(所沢市)、児玉町(本庄市)に住みました。菫子は生涯に20回も転居して

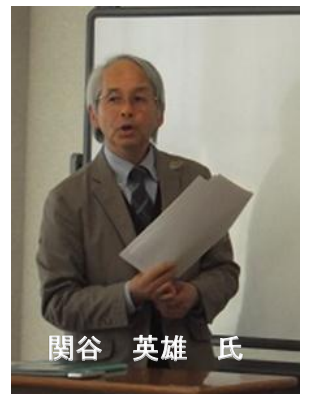
います。

小手指村の小学校に入学した直後に、菫子と栄一の姉弟を残して母が病死し、父が再婚します。継母が産んだ4人のうち、最初の一郎が俳優・左ト全です。

菫子は小学校尋常科と高等科を児玉町で卒業しました。寄宿舎生活を送っていた浦和町(さいたま市)の埼玉県女子師範学校は、3年生の途中で結核のため退学します。父が校長をしていた船堀村(江戸川区)で療養後、明治41年6月末から大正3年3月まで5年9カ月、秋川上流の西多摩郡小宮村(あきる野市)で小学校の代用教員(後に准教員)をしながら、短歌や文章を雑誌に投稿しました。

歌風の変遷／小説も書く

小宮村の頃は、与謝野晶子の指導による浪漫的な新詩社の歌風となっており、若山牧水の影



関谷 英雄 氏

響も受けています。やがて、結婚・出産など自身の生活や社会の変化から、アララギの島木赤彦に5年間師事し、現実に即した写生的な短歌を詠みます。ある出来事でアララギを離れ、古泉千樫に師事した『日光』の時期に、澄んだ深い境地になっていきます。

葎子は結婚後に小説も書き、5編を発表しました。登場人物が葎子など実在の人物の日記の内容と重なる部分も多く、私小説的な短編です。また、大正9年から『少女号』に少女向けの短歌や物語を書いています。

新詩社の頃

けき雪はしろがねのこと枯草のかわきし上ぞかがやきにける

これは明治42年、『女子文壇』4月号に投稿し、与謝野晶子の選で初掲載された葎子の短歌です。以後、毎月入選しています。

その後葎子は新詩社に入ります。明治43年に『スバル』や若山牧水の『創作』に短歌が載ります。

明治45年、準教員試験に合格。平塚らいてうの青鞥社に入り、

『青鞥』には一〇一六首が載ります。この頃、夫となる所沢町出身の倉片寛一（東京で勤め、文学好き）と知り合って文通を始め、船堀村や小宮村で会います。

大正2年、名古屋の原田琴子の仲介で、宮城県の原阿佐緒と文通を始めます。与謝野晶子に見出された原田琴子と原阿佐緒がそれぞれ歌集を出し、葎子も歌集『眠の前』の準備を進めますが、大正3年3月、葎子の退職と同時に夫が失業し、歌集は実現しません。経済的に楽ではない生活に入ります。

結婚・出産

上京し結婚。神田区に住んだ後、夫の友人・中川一政の手引きで巢鴨村向原（東池袋）の借家に移り、大正3年12月末に長女・みなみを産みます。夫の両親はこの結婚に反対していましたが、みなみ誕生後は温かく接してくれます。

大正4年には短歌多数と小説4編を発表。やつと10月に夫が大日本水産会に就職できても家計は苦しく、葎子は裁縫や刺繍

の内職もします。それでも家族で博覧会や演劇を見、文芸雑誌も購読しています。しかし、短気な夫とのいさかいが多く、家事の時間や病気に悩みながら文学に向き合いました。

アララギで

大正5年4月に葎子が発病（血痰、膀胱炎）、8月に長女を所沢の夫の実家に預け、以後は時々しか会うことができません。8月末から40日間、宮城県の原阿佐緒の家に招かれて静養中、東京の島木赤彦に手紙と短歌を送りアララギに入会します。

大正6年2月、夫の勤務先に近い麻布区谷町の日あたりの悪い長屋に転居し、小説1篇を発表します。新橋の平民病院に通院。若山牧水夫妻を原阿佐緒と訪問したり、与謝野晶子宅歌会では高村光太郎や茅野雅子などと会います。

大正7年7月、宮城県に行き原阿佐緒の相談を受けます。これは東北帝大教授でアララギ歌人の石原純が、妻子がありながら原阿佐緒に強く思いを寄せている問題です。

大正8年5月、谷町で日のあたる長屋に転居。『アララギ』掲載の短歌が、力を認められ葎子自選となります。生田花世や長谷川時雨と文学の勉強会に参加します。

大正9年2月から2年余り、夫が水産新報社の編集長として大阪に単身赴任。東京の葎子は4月のアララギ歌会で杉浦翠子や今井邦子と会います。10月、問題を抱えた原阿佐緒が上京、葎子宅に数カ月同居します。

大正10年2月、念願の葎子歌集『吾木香』（われもこう）を出版。同居中の原阿佐緒が序文、装丁は中川一政、出版費用は夫が工面しました。



2月末、菫子宅の原阿佐緒に石原純が同居し、石原純を説得しようと島木赤彦や斎藤茂吉、古泉千樫などが来ます。男を惑わす妖婦と各新聞で非難される原阿佐緒を擁護するため、菫子が『新家庭』と『婦人公論』に事実関係を掲載。その行動が島木赤彦の方針に反し、9月に菫子はアララギから破門されます。

波乱と平穩

大阪では夫が会社の若い女性と親しくなり、大正11年4月に夫が帰京すると、その女性・徳田富野(菫子没後の後妻)が追ってきます。菫子は離婚せず、3人の同居生活に耐えます。長女への思いと短歌が支えでした。

大正13年3月、夫と富野が近くに転居。独居の菫子の生活費は夫が負担します。4月、北原白秋などが「日光」を創刊、アララギを離れた古泉千樫とともに菫子も同人になります。ようやく得た平穩ですが、8月に脳出血で一時右半身不随に。長女が一時転校して朝夕に立ち寄り、原阿佐緒も見舞います。翌年は妹が看病、小康状態で「日光」

や「少女号」に短歌を載せます。

昭和2年3月25日に脳出血が再発し、翌26日、上京した長女などに看取られ自宅で亡くなりました。所沢・実蔵院の倉片家墓地に眠っています。

菫子の短歌

あめつちのあらゆるものにことよせて歌ひつくさばゆるされむかも

明治42年『女子文壇』、23歳、短歌への決意。

名も知らぬ小鳥きたりて歌ふとき我もまだ見ぬ人の恋しき寂しさを歌ふ人なくなりし時ろをまの国は亡びしときく

明治43年、1首目『スバル』、夢見る心。2首目『創作』。

君を見ん明日の心に先だちぬ夕雲赤き夏のよろこび

大正2年、倉片寛一との恋愛。

何よりもわが子のむつき乾けるがうれしき身なり春の日あたり親のかほけさやうやくに見いでたる瞳ははまだ水のごとしも

大正4年『青鞥』、幼い生命

のいとおしき。

病めば子のやしなひがたく人のゐる湯ぶねの中に涙おとしぬ
大正5年『詩歌』、離れて暮らす長女を思つて。

天秤につらぬきて運ぶ稲束の垂り穂は地に曳きずられつつ

夕川のつめたき水に洗ひたる小燕ましろに積みあげてあり

大正6年『アララギ』、まっすぐな視線と描写。

ふるさとの吾児を見にゆく汽車の銭つくとこの日ぬひとりす我は

大正8年『アララギ』、刺繍の内職で所沢への交通費を。

わが家のまうへをとほる飛行船大いなるもの空をゆくかも

たまきはるいのちひとつを守りなん今宵焼けなば焼けよ我が家

大正12年、1首目は所沢。2首目、波乱の谷町で関東大震災。

このごろのわだかまりなきわが心誰にか告げんわれここにゐて

春の雨けぶる櫓の梢よりをりをり露のかがやきて落つ

咲きのかぎり咲きたるさくらおのづからとどまりかねてゆらげることし

大正13年『日光』、一人暮らしの菫子の澄んだ心境。

わが家とさだめられたる家ありて起き臥しするはたのしかりけり

この夕べ窓の板戸にはずみたるそのごむ襪は大きくあらん

大正15年『日光』、家について外の音や光を感じ取ります。

菫子の短歌には派手ではない独特の調べと、染み込むような力があります。

《参考文献》

『三ヶ島菫子全歌集 上・中・下』

(立命館出版部)

『三ヶ島菫子日記 上・下』

(至芸出版社)

『三ヶ島菫子往復書簡抄』

(至芸出版社)

『定本三ヶ島菫子全歌集』

(短歌新聞社)

『三ヶ島菫子』・ロ・三

(所沢市教育委員会)

トベアの本館めぐり⑦

1階・2階

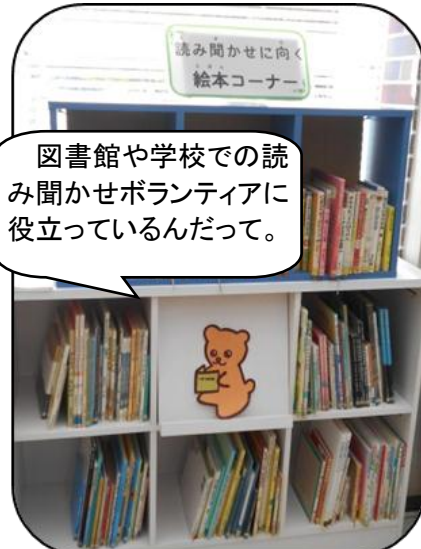
ぼくは図書館のマスクット「トベア」です。

航空公園にある所沢図書館本館の1階と2階を案内します♪

本館は、最高裁判所と同じ有名な建築家が設計したんだって!!



おはなし会室では、土曜日に「かがくあそび」や「おはなし会」をやっているよ。みんなも参加してね。



図書館や学校での読み聞かせボランティアに役立っているんだって。

読み聞かせに向く絵本コーナー

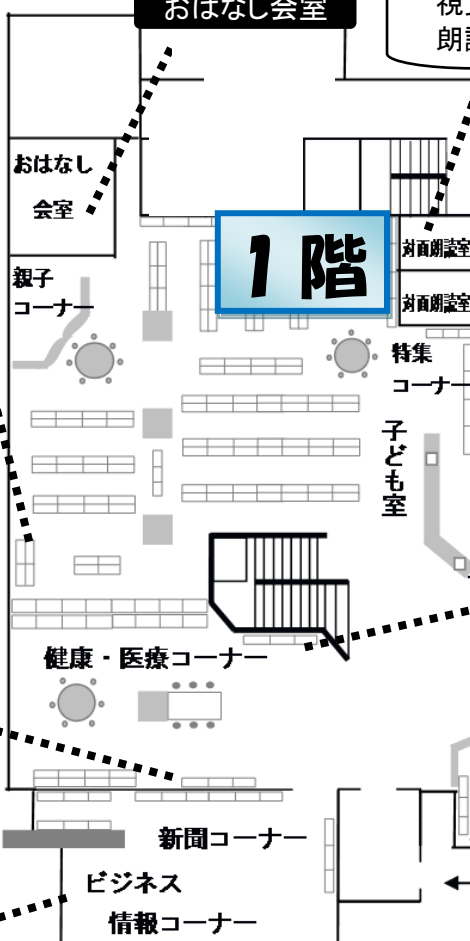


おはなし会室



対面朗読室

視覚障害をお持ちの方に対して、朗読サービスをするための部屋だよ。



1階

「徳川家康没後四百年」の特集をやっていたよ。



1階特集コーナー



介護コーナー



ビジネス情報コーナー

新聞、ビジネス関係の本や雑誌、全国の電話帳の他に、ハローワークからの求人票が置いてあるんだね。

図書館内の飲食はここができるよ。



休憩コーナー

新刊の小説・エッセイのリスト
書評に載った本のリスト

時代小説の文庫がたくさん並んでいるよ。カウンターの近くにあるから貸出の前にチェックしてみてね。

気になる本があるときは、本のタイトルやバーコード下の番号をメモしてカウンターに持っていくと予約できるよ。

2階

時代小説コーナー

カウンターで申し込みをすると自分のパソコンを使うことができる席なんだって。

小さな文字が読みにくい人もこれなら大きな字だから読みやすいね。

大活字本のコーナー

一般室

パソコン等
持ち込み席

パソコン等持ち込み席

「芥川賞・直木賞受賞者作品特集」をしていたよ。受賞者のリストをもらったよ。
今年の芥川賞受賞者の一人、滝口悠生さんは所沢高校の卒業生なんだって！！知らなかったなあ。

雑誌コーナー

雑誌スポンサー制度※で購入された雑誌や郷土関係の寄贈雑誌もあるんだって。
雑誌のバックナンバーはフタを開けると入っているよ。

2階特集コーナー

雑誌コーナー

所沢市立所沢図書館（本館）

【基本情報】

〒359-0042 所沢市並木 1-13

TEL 04(2995)6311 FAX 04(2992)1421

西武新宿線航空公園駅より徒歩5分

※雑誌スポンサー制度

地元の企業等に、雑誌の購入代金を負担していただき、最新号のカバーにスポンサーの名称やメッセージ等を表示するものです。

介護の日



「介護の日」をご存知ですか。

介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援し、地域社会における支え合いや交流を促進するための日として「11月11日」を「介護の日」と決め、平成20年7月27日に厚生労働大臣から発表されました。

図書館本館では、平成27年11月9日から11日に市役所1階市民ホールで開催された「介護の日」のイベントに参加しました。このイベントは、介護の日に合わせて、介護の意義や重要性を知っていた



だくために開催され、地域包括支援センターの活動紹介や、電動車いす・着型ロボットなどの体験型展示などが行われました。

図書館のブースでは、図書館本館の介護コーナーの案内や高齢者向け紙芝居、大活字本の展示、高齢者施設への出張おはなし会の紹介などを行いました。

図書館本館にある介護コーナーには、介護食のレシピ本、高齢者が楽しめるゲームや手遊びを集めたレクリエーションの本、足腰を鍛えて寝たきりにならないための体操の本など介護に役立つ本を集めています。

また、高齢者向けの紙芝居は、『黄金バット』や『金色夜叉』などの懐かしいものから、昔話や落語の紙芝居も所蔵しています。

大きな字で読みやすい大活字本は、太宰治や川端康成などの名作だけでなく、村上春樹や東野圭吾などの話題の作家の本もあり、とても好評です。

また、これらの図書館の本は、団体貸出をすることもできます。団体登録をした施設などに、1団体200冊まで最大で2ヶ月間貸し出すことができます。高齢者施設等に読書コーナーなどを設けて利用していただくこともできます。

また、高齢者施設等への出張おはなし会では、図書館職員が施設に向き、朗読や読み聞かせ、手遊びなどを行っています。

3日間ともたくさんの方に来場していただくことができました。この展示をきっかけとして高齢者の方にも、より一層図書館を利用していただくことができれば幸いです。

編集後記

◆本を読んでいると…

睡眠がやってくる。(M)

◆新たな本との出会いを大切にしていきたい。(K)

◆今年こそ苅狩りしたい。(T)

◆そろそろ虫が出てくる。(S)

◆冬、発行の予定が…

暖かくなってきちゃった。(I)

編集発行：所沢市立所沢図書館

〒359-0042 所沢市並木1-13

ホームページアドレス パソコン

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp>

携帯電話

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k>

スマートフォン

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2016年3月3日発行 復刊いずみ11号 (通巻89号)